

回想＝Recollection＝

深谷赤十字病院 清水文孝

技師長最終年総括という壮大なテーマでの原稿依頼をいただき、パソコンに向かう手が動かず固まったままになっています。

日本赤十字社のいち診療放射線技師として働きだしてから、41年が過ぎようとしています。長い時の旅したように思えます。でも、振り返ると短かったとの印象しか残らないのは、それだけ充実した技師生活だったのかと自問自答してしまいます。41年の間には、様々な方々とお会いできたことが、最善最大の財産だと思っています。

30歳そこそこの若造が、技師長の一言で赤十字技師会の常任理事になり、右も左も判らないまま任期（2年）を終えました。でもこの時の出会いの財産が後々に生きてくるとはつゆ知らず、肩の荷を降していました。この頃は、脳血管撮影の研修で東海大学病院、心カテ立ち上げの研修で小倉記念病院と、出かけたことが更に財産を増やして行きました。業務においては、ただがむしやりに動き続けたことしか思い出せません。

40歳の時、(公社)埼玉県診療放射線技師会の理事に推薦され、またまた何もわからないまま飛び込みました。そして、2期目に常任理事に推挙されました。退任まで、総務、学術、編集を担当し、それぞれの委員会で更に人財を得たことは言うまでもありません。当時の藤間会長、小川副会長に師事し自己を高めると同時に目標にもなりました。そして、今でも県技師会の役員の方々や元役員の方々とは繋がりが持っており、幅広い人財を得られたことに感謝の一言です。

それから10年を一区切りと思い役員を退任させていただき、仕事と趣味に没頭と考えていた頃に益井前会長から一声がかかりました。益井前会長とはお会いしたこともお話ししたこともありませんでしたので、益井前会長からの一本の電話にて人生が変わったと思っています。今度日赤技師会の会長になるので、常任理事を、会誌編集を担ってくだないかの電話でした。任意の団体でもなく、職域の団体の役員就任要請。職域の関係もありお断りもできないと考え、了承いたしました。これからが激動の10年間になったのは言うまでもありません。益井前会長の元に参集した役員の方々は、それこそ優秀な方々でありここでも人財を得たと思っています。しかし、浅学菲才の身がその中でやっていけるのかと不安ばかりの日々でした。そのような中で顔見知りの前橋の久保田技師長がいらっしゃったので、ほんと安堵し心強さを得たことを覚えております。初めての役員会。初めての情報交換会。緊張の一文字しかありませんでした。しかし、職域の仲間という意識、赤十字の御旗に集う集団に次第に打ち解け、益井前会長からの電話一本にて参集した同士と知り一安堵。後は一生懸命に会務に打ち込んだと自負しております。

その後は、役員会にて役員の皆さまとお会いできるのが楽しみになり、苦痛と考えていた役員会が楽しみになったのは、紛れもなく役員皆さまのお陰と感謝しております。限られた役員会の時間に集中し、その後の情報交換会で更に情熱を発散する同士の姿を見られるだけで楽しいひと時になりました。また、持っている業務運営やスタッフの悩み相談等

ができる素晴らしい仲間、同士を得た瞬間でした。

井の中の蛙。そんな狭き心情の当方を大海に導いて下さった益井前会長や役員の皆様に感謝です。

その後は、副会長、会長を歴任させていただきましたが、浅学菲才、書くこと、話すことが不得手、人見知りの当方が何故会長に就任することになったかは、未だに自問自答している状況です。しかし、その間に各ブロック研修会からの招聘により会員の皆様との交流ができ、更なる人財を得られた日々でした。講演や挨拶、更にお酒も苦手な当方が会員の皆様と交流が図れたことは本当に楽しく、時間が過ぎるのを忘れさせてくれた日々でした。研修は、土日に開催されますが、連続で全国を駆け回った疲れを癒していただけたのはブロックの会員の皆さまでした。この間、留守を守ってくれた当院のスタッフに感謝です。

会長に就任しやらないかならなかったと思った一つが、創立60周年を機会に「日本赤十字放射線技師会」から「日本赤十字社診療放射線技師会」へと名称変更することでした。「社」を付すことの難しさを知っていたこと、先輩から難しいねの一言、当たって砕けるしかないと本社担当者にアタック。そして、了承を得られた時は感激でした。診療を付すことは、その意味を会員にご説明し、総会にて承認された時も感無量でした。

常任理事2年、副会長2年、会長6年、この10年は良き同士に恵まれ、有意義な時を過ごすことができました。本当に感謝の一言しかございません。人財に恵まれるとはこの10年を表す一言でしょう。この一文を呼んでいただけている会員の皆さま、一本の電話が大げさに言えば人生を変えます。その時は、イエスとおっしゃってください。

拙い文章となってしまいましたが、その真意はお分かりいただけるものと思います。今後の日本赤十字社診療放射線技師会のますますの発展、会員諸氏のますますのご活躍を夢見ながらPCを閉じます。日本赤十字社診療放射線技師会が、70年、80年、100年と発展されますことを祈念いたしまして回想録といたします。

これからは、日本赤十字社の一〇Bとしての与生、一人の趣味人としての余生、好々爺としての与生、与命を過ごしていきます。与生、与命を間違っていると一言しないで下さい。普通になら余生、余命と書きますが、余生といっても余ったものではありません。与えられた人生、与えられた命です。ですので、与得られた人生を謳歌し、楽しく愉快的な人生にいたしたいと思っております。決して余った人生ではないと思っております。

会員の皆さまも今を謳歌してください。